

主イエスは「完全な人となりなさい」(マタイ 5:48)と言われ、また「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」(マタイ 9:13)とも言われます。

本日のテキストは「不正な管理人」の話です。ある金持ちに一人の管理人がいました。この管理人の不正が発覚しました。主人からもう管理人をさせておくわけにはいかない。報告書を出しなさいと命じられました。どうしよう。不正がばれそう。土を掘るには力はないし、物乞いするのは恥ずかしい。そこで考えました。取引している人に、書類を書き換えるように持ちかけよう。辞めさせられた時に自分を迎えてくれるかもしれない。

この話のポイントは「主人はこの不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた」(8)というところです。不正をほめたのではなく、「抜け目のないやり方」をほめたのです。「抜け目のないやり方」とは何でしょうか。

ここにいくつかの課題があります。まず、この人は弁解できない不正にまみれているという事です。そしてまだ終わりではなく、間があることです。次に、今の現実を抱えてどう生きるかという工夫です。

宮崎駿のアニメ映画に「君たちはどう生きるか」というのがあります。義母親を探しに旅に出る真人ですが、悪魔のペリカンに悩まされます。苦しみと悩みの中で、謎の塔にたどり着きます。中に入って行くと、主から、世界の均衡を保つ役割を担ってほしい「悪魔に染っていない石」を使うと「奪い合い、殺し合う」世界を変えることができると持ち掛けられます。しかし真人はその悪いことや矛盾は自分の中にもあることに気付くのです。どうするかというのがテーマです。このアニメの原作とも言われる吉野源三郎の「君たちはどう生きるか」という小説も同じテーマです。主人公のコペル君は、友達を裏切ってしまった自分に悩みます。おじさんはパスカルの言葉から「人間は自分自身を哀れなものと認めることによってその偉大さが現れる」と教えます。

キリストの救いは、弱さや、罪が無くなるのではなく、そのただ中でキリストと共に生きることです。その自分をどう付き合うかです。それが「小事に忠実な者」ということであり、主はその罪人を招かれるのです。